

## Carry Out!

～志高く<sup>ま</sup>仙台の未来を切り拓こう～

公益社団法人 仙台青年会議所  
2022年度 理事長  
八重樫 司

### 【はじめに】

「志を立てよう。本気になって、真剣に志を立てよう。生命をかけるほどの思いで志を立てよう。志を立てれば、事はもはや半ばは達せられたとあってよい。志を立てるのに、老いも若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ずひらけるのである。」(※1) 私の畏敬する経営者、松下幸之助氏の言葉です。

「アフターコロナ」や「Withコロナ」と呼ばれる先を見通せない今だからこそ、これまでの経験や価値観に頼るだけではなく、これからの時代を見据えた柔軟な発想で組織を最適化していくことが求められています。仙台青年会議所(以下、JCI仙台)は、2014年に策定されたLOM中長期ビジョンの流れを継承し、会員一人ひとりが組織のあるべき姿への理解を深めるとともに、関係各所に対して、より具体的且つ本質的にJCI仙台の運動への理解と共感をいただくために、以降5年に亘る行動指針「LOM中期ビジョン2026」を新たに策定いたしました。「LOM中期ビジョン2026」は、「市民」「まち」「組織」の3つの柱のもと、「しあわせを共感できる仙台の実現」を目指し、「市民」との協働を通じて「まち」の持続的発展を創造する「組織」へと進化する道しるべとして、組織が有する独自性とスケールメリットを活かした地域発展への確かな未来像を示しています。

本年は、「LOM中期ビジョン2026」が掲げる理想とする未来へ向けて、メンバー一人ひとりが地域を牽引するリーダーとしての高い「志」を持ち、<sup>ま</sup>仙台の未来を見据え、市民と共に、地域に根差した運動を展開して参ります。

### 【誰もが活躍できる次代の組織へ】

JCI仙台は、先輩諸兄姉が70年に亘り、まちづくりやひとづくりを通じて築いてきた歴史があります。会員の目指すべき基本として掲げられているJC宣言文に、「希望をもたらす変革の起点として」というこれからの組織としての在り方に言及した一文があり、これには、会員一人ひとりが率先して行動を起こすことで、誰もが人生をより良くできると実感し、社会により良い変化を生み出す運動を起こせるとの意味が込められています。コロナ禍の中、私たちJCI仙台は会員指針に則り、メンバーを取り巻く環境が変わり、組織に求められる価値観が変化している今だからこそ、誰もが活躍できる時代に即した変革の起点を創るときであると考えます。

青年会議所は日本で最もSDGsを推進する団体であり、JCI仙台は2020年に仙

台市とSDGsの普及啓発に関する連携協定を締結いたしました。JCI仙台は、これまで創り上げられてきた礎のもと、組織全体でSDGsを運動の基礎として推進する基盤を構築し、「仙台に必要とされ続ける組織」として、メンバー一人ひとりが主体的に行動する意識変革と、誰もが活躍できる時代に即した組織変革を遂げるとともに、組織の社会的価値の向上に向けて、運動の更なる発展に繋がる広報戦略を実現することで、市民を惹きつけ、共感の輪を広げる組織ブランディングを行う必要があります。

本年は、メンバー一人ひとりの衆知を集め、JCI仙台の未来像を描き、組織全体で行うSDGsの推進のもと、伝統を守りつつ、時代の変化に対応し続けるしなやかな組織へ進化するとともに、高い「志」を持った「個」が集う魅力溢れる組織としてのブランドを確立することで、共感の輪を広げ、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

#### 【仙台を照らし、未来を切り拓く】

1970年に始まった仙台七夕花火祭は、仙台七夕まつりの前夜祭として、市民に地域を愛する気持ちを高めていただくことを目的に開催されてきましたが、新型コロナウイルスは例外なく仙台七夕花火祭にも影響を及ぼし、近年は形を変えて開催を継続して参りました。コロナ禍を経験したこれからの時代の仙台七夕花火祭には、打ち上げ環境の整備や複雑化する警備計画の見直し等の従来課題に加え、引き続き安全・安心・クリーンに配慮し、新型コロナウイルス感染防止対策を始めとする様々な課題にも適応する計画性が求められています。

仙台七夕花火祭が、地域に根差した運動として、市民の地域を愛する心を育み、次代へ継承していくためには、これまでの連携に頼るだけでなく、関わる人々の裾野を広げ、社会情勢に応じて柔軟な開催を可能とする市民・行政・企業を含む他団体との有効なネットワークを築き、これまでの形態に捉われない多様な視点で、新時代を見据えた仙台七夕花火祭へと進化する必要があります。

本年は、主催者としての行動指針や判断基準を身に付けたメンバー一人ひとりが、仙台を愛する高い「志」を持って、恒久的且つ広範なネットワークを築くとともに、柔軟な発想が可能とする新たな基盤を構築し、新たな価値観を持って開催する仙台七夕花火祭を通じて、市民の地域を愛する心を高めることで、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

#### 【同志を集い、未来を切り拓く】

人は、他者と関わり、他者との繋がりの中で自分を表現していくことで大きく成長し、人は、人によって磨かれます。JCは同じ「志」を持った仲間が「同志」として40歳までの限られた時間の中で、多様な価値観を持った「個」が集い、時に真剣にぶつかり、他者の考えや見ている景色から自らの視野を広げ、自己成長に繋げられるとともに、共に活動する「同志」の輪の広がりや、「個」の成長と組織の大きな推進力と強い発信力に繋がり、運動の可能性を大きく広げ、より地域にインパクトを与える組織へと成長します。

コロナ禍により、社会課題が多角化する中で、J C I 仙台の推進力と発信力を加速させていくためにはメンバー一人ひとりが当事者意識と危機意識、目的意識を持ち、地域に根差した広範なネットワークを活かすとともに、J C 活動を通じた個人、地域、国際、ビジネスの機会から得られるJ C独自の魅力を伝え、どのような社会情勢でも仙台を想い、共に困難に立ち向かう新たな「同志」を募る必要があります。

また、青年会議所は、「青年の学び舎」としてJ C運動を通じた人財育成を目的としており、J C I 仙台は入会後に活動できる期間を一定年度確保することで、単年度制を活かした様々な学びの機会を提供しています。メンバー一人ひとりが自らで掴む多くの自己研鑽の機会と高い「志」のもと、「同志」と共に切磋琢磨し、真に仙台を愛するリーダーを育成することで、これからの時代に打ち克つ力を持った地域を牽引する組織へと進化する必要があります。

本年は、組織の魅力への理解を深めたメンバー一人ひとりが、当事者意識と危機意識、目的意識を持って主体的に行動する拡大基盤のもと、会員拡大を成し遂げるとともに、自己研鑽に励み、切磋琢磨する中で多くの学びを享受し、J C I 仙台の一員としての高い「志」を持って行動する「同志」と共に、仙台を牽引する組織へ進化することで、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

#### 【未来を切り拓く新たなネットワークの構築】

企業の約9割を中小企業・小規模事業所で占めている仙台市の雇用情勢は、生産年齢人口の減少や各社の有効求人倍率の上昇などの多くの問題が絡み合い、人手不足が深刻であり、学生はコロナ禍によって地元志向へと変化しつつあるものの、依然大手企業志向は根強く、地元本社の中小企業の人財確保は難しい状況にあります。企業経営における資源は「ヒト・モノ・カネ・情報」と言われますが、最重要項目は「ヒト」、会社で働く従業員「人財」であり、仙台市内の企業に就職する学生は、「仙台が好きだから」、「生まれ育った仙台のために何かをしたい」という仙台を想う心が意思決定に大きく関係しているものの、仙台のために行動を起こせる連携基盤が整っていないのが現状です。

仙台の持続的発展に向けて、次代を担う人財が仙台のために行動を起こすことができる連携基盤から、仙台の発展に対する高い「志」を立てるとともに、ニューノーマルな時代へ向けて、新たな戦略と発想で行動する機会を創造する必要があります。

本年は、次代を担う人財が地域に根差した連携基盤を構築する中で、多様化する価値観と仙台を愛する想いを互いに享受し、高め合うことで、仙台を想い行動するための高い「志」を立て、自発的に仙台を牽引していく力を育むとともに、多角的な視点と戦略を用いて仙台の課題解決に取り組むことで、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

#### 【未来を切り拓く子どもたちの「立志」】

「人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、たくましく、しなやかに自立す

人の育成」を基本理念として掲げる仙台市では、強い意志で乗り越えるたくましさや柔軟に対応するしなやかさを持つ子どもの育成を目指しています。一方で、新型コロナウイルスによる急激な社会の変化は子どもたちの生活にも大きな変化を与えており、コロナ禍により交流や体験の機会が減少した子どもたちに向けて、社会で一人ひとりが活躍できる力を身につけるために、グローバルな視野を持ち、自らの将来像を描き挑戦する力を養う機会が求められています。

私たちは、仙台の未来を切り拓くかけがえのない子どもたちの将来に対する視野を広げるための知識や見識から「志」を立て、強い意志で未来に向かっていく豊かな心の成長を育む機会を創出する必要があります。

本年は、子どもたちが多様な価値観を享受する機会から年齢に関係なく挑戦する行動力と高い「志」を学ぶことで、これからの人生における夢や目標の実現に向かううえでの指針となる「志」を立てる機会を創出し、「志」高く行動する子どもたちが切磋琢磨することで、仙台に活力を与え、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

#### 【未来を切り拓く会員連携の強化】

青年会議所は国際組織として世界中の人々と友情を育み、国際交流による相互理解や多様な価値観を享受した国際的な視点で地域の未来を創造できるネットワークを有しています。JCI仙台は、国内外に姉妹LOM（※2）を有しており、これまで多くの交流を行って参りましたが、新型コロナウイルスの影響により国際組織として会員に付与されるJCI世界会議（※3）やASPAC（※4）等と同様に、ここ数年はオンラインでの繋がりとなっており、国際交流や国際貢献の機会が限定的になりつつあります。コロナ禍により、国や地域を超えた交流が減少傾向にある中、私たちJCI仙台は、地域に根差した組織として仙台の活性化を考えていくために、組織の枠にとられない他団体との連携を推進し、地域にインパクトを与える運動を創出する使命があります。

オンラインでの交流が日常的になった今だからこそ、メンバーの国際力を高め、運動の推進力を向上するために、社会情勢に柔軟に対応した国際交流を実践するとともに、他団体との連携から広範なネットワークを構築することで、組織の基盤を更に強化する必要があります。

本年は、青年会議所の独自性とコロナ禍で得た知識や経験を活かし、どのような社会情勢下でも国内外問わず連携する仲間との交流を深め、会員が組織の魅力を感じる機会を創出し、高い「志」を持って会員が連携する運動を展開することで、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

#### 【おわりに】

私たちの理想とする仙台は、市民一人ひとりが仙台を愛する想いを行動に移すことによって創出されます。誰かがやるだろうと他人任せにせず、自分で判断し、自分で行動して参

りましょう。急激に変化する時代に向き合い、次代を思い描き、新たな時代を切り拓こうとする価値観と柔軟な発想のもと行動することで、<sup>ま</sup>仙<sup>ち</sup>台の未来が創造されるのです。

「志」を高く持とう！

自分のためにも、

家族のためにも、

次代を担う子どもたちのためにも、

<sup>ま</sup>仙<sup>ち</sup>台のためにも、

C a r r y O u t !

高い「志」を持って、実行する、成し遂げるのは、他の誰でもない私たち自身なのです。

時代が大きく変化し、先を見通せない今だからこそ、メンバー一人ひとりが高い「志」と当事者意識を持って実行していくことで、未来を切り拓く持続可能な仙台を実現します。

---

※1 道をひらく 著者：松下幸之助 PHP研究所 引用

※2 JCI仙台は1977年JCIパラニャーケパンバト（フィリピン）、1988年JCI白老（北海道地区道南ブロック）、1989年JCIマゴ西ソウル（韓国）、1994年JCIアイランド（香港）と姉妹LOM締結を調印しております。

※3 毎年、原則的に11月第1週に、開催地を変えて開かれる、世界中の青年会議所会員が一堂に集う会議です。組織運営に関する会議、世界会議スローガンに基づくセミナー、会員の資質向上を目的とした各種セミナー、分科会が開催されます。同時に、国際青年会議所の理念を広めるための褒賞事業なども開かれます。

※4 国際青年会議所は4つのエリアで構成され、毎年それぞれのエリアの会員が一堂に集う会議が行われます。アジア・太平洋地域会議はASPAC（Asia Pacific Area Conference）の略称で呼ばれています。国際青年会議所の目的推進やJC運動に関するセミナーが行われています。